

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

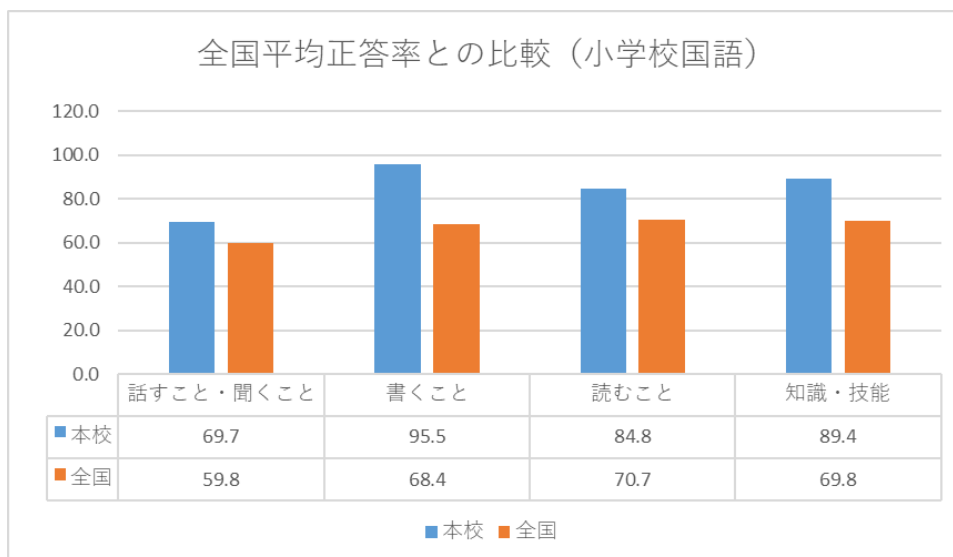
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

全体の平均正答率は本校 85%，全国 67.7%となっており，全国を大きく上回っていました。また，領域別にみても全ての領域において，全国を上回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査で，特に「書くこと」の領域で，全国の平均正答率を大きく上回っていました。本校では，これまで，「主体的・協働的な学びを進める教育活動」の一環として，自分の学びを振り返り，文章で表す学習活動を取り入れてきました。授業の中で文章を書く機会が増えたことが，よい結果につながっている理由の一つだと考えられます。しかし，「知識・技能」の中の主語，述語等の文法事項，国語・漢字辞典の使い方等，下学年で学習する内容において正答率が低いものがあり，課題がみられました。国語は低学年からの積み重ねが非常に大切な教科です。どの学年においても，これまでに学んだことを関連付けながら更に力を付けることができるよう指導していきたいと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

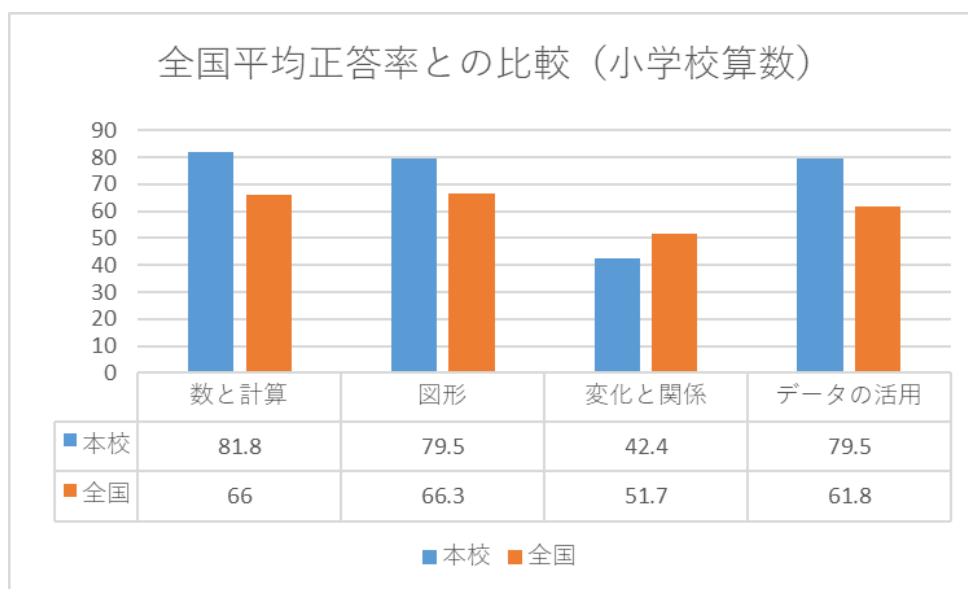
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように，授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で，子ども同士が話し合いながら，深く学んでいけるようにします。また，子どもたち自身が「深い学び」を実感できるように，自分の学びを振り返り，文章化させることにも継続して取り組んでいきます。
- 言葉の指導は低学年から日常的に取り組んでいきます。教科書の物語文や説明文の中で主語，述語等の文法事項を取り扱ったり，辞書を引く機会を増やしたりして，語彙力を伸ばします。

【ご家庭では】

- 低学年からの音読を大切にしていましましょう。お子さんの宿題の音読を聞く際に，正確にすらすら読めているかどうか，音読している文章と照らし合わせながら聞いてあげてください。正確にすらすら読めることは，読解の基本となります。
- 語彙力，読解力を伸ばすためにはやはり読書は欠かせません。文学・科学・歴史等様々なジャンルの本を読み，色々な表現や用語にふれることで，語彙力を高め知識の幅を広げることができます。新聞を読むこともよいと思います。また，図書館に定期的に行くことも子ども達の読書習慣をつける上で有効であると考えます。

2 算数



(1) 結果

全体の平均正答率は本校 74%、全国 63.4%となっており、全国を上回っていました。領域別にみると「数と計算」「図形」「データの活用」の領域では全国平均正答率を大きく上回っていましたが、「変化と関係」の領域では下回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では「数と計算」「データの活用」においては、全国平均正答率を 15%以上も上回っていました。答えを記号で選んだり、式や答えを書いたりする簡単な問題だけでなく、答えの求め方やわけを式や言葉で説明する問題においても高い正答率で、全体としてはよくできていました。しかし、「変化と関係」領域の「速さ」に関する内容に課題が見られました。「速さ」とはどのようなものなのかという「速さ」の意味の理解、「速さ」「道のり」「時間」の関係についての理解が不十分だったために、「速さ」に関する問題は全国平均正答率を下回っていました。「速さ」の単元についてもう一度取扱い、定着を図ります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 文章題では、問題場面や問われていることが何かをつかむために、問題場面を絵に表したり、図をかいたりする学習活動を取り入れます。児童一人一人に思考する時間を確保した後、考えを交流する場面を設定することで、説明する力も伸ばしていきます。
- ドリルやプリント等の宿題や授業ノートのチェック、スキルタイムの課題等、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 生活場面において、算数を使う機会を意識的に作ってください。例えば、ホールケーキを家族で切り分ける際には分数や角度の学習が活かせます。冷蔵庫に入っている牛乳やお茶など様々な飲料には異なるかさの単位が使われており、量感を伴ったかさの学習ができます。算数が生活と結びついていることを知ることで、算数の便利さ、おもしろさが実感できると思います。
- 低学年での計算カードの学習は非常に重要です。1年時の繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算、2年時のかけ算九九は、計算カードの式を見たら瞬時に答えられるようになるまで練習に取り組んでほしいと思います。四則計算が速く、正確に解けることは、学年が上がると大きな強みになります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.9%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	54.5%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	72.7%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	54.5%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	45.5%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	90.9%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	90.9%	79.5%

どの項目も全国平均よりも高い結果ですが、約半数の児童は、就寝時刻が定まっていないのが気になります。誰にでも1日は24時間しかありません。やりたいことがあると、つい睡眠時間を削ってしまいがちですが、十分な睡眠時間を確保することは子どもの成長のために何よりも大切です。1日の時間の使い方を見直して、しっかり睡眠時間を取れる時刻に就寝することと、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくように心がけてください。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	0%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.1%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	27.3%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	45.5%	27.0%
「30分より少ない」	0%	13.0%
「全くしない」	18.2%	5.3%

家庭学習については全国平均よりも短い傾向にあり、半数以上が1時間未満となっています。6年生の家庭学習の目安としては、70分程度となっていますので、少ない児童が多いようです。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者の方々や児童に伝えて、家庭学習が習慣化するように働きかけていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣が身に付くように指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。また、今年度から、自分で何の学習をするかを自分で決めさせるために、全学年において週末には必ず自主学習（自学）に取り組むようにしています。今後は自学ノートのコピーを掲示して友達の自学から学べるようなコーナーを作り、取組を広げたいと思います。
- 2学期にも「家庭学習がんばり週間」を設定します。自分の家庭学習や1日の時間の使い方について振り返らせることで、改善を促していきます。

【ご家庭では】

- 1学期にお配りした「家庭学習の手引き」を参考に、規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣が身に付くよう御指導ください。宿題が早く終わったら、読書をしたり、自主学習に取り組んだり学年に応じた家庭学習時間の目安時間は取り組めるように声掛けをお願いします。